

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機械・制御システム特別研究Ⅰ
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験		単位の種別と単位数	履修単位: 8		
開設学科	機械・制御システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	8		
教科書/教材						
担当教員	井上 浩行,加藤 学,細谷 和範,趙 菲菲,野中 摂護,小林 敏郎,桶 真一郎					
到達目標						
学習目的：工学的あるいは技術的な課題を見出す能力，またその課題を具体的に解決する能力を修得し，技術者としての基本的な素養やデザイン能力を身につける。						
到達目標						
1. 専攻する技術分野について，ICTやICTツールを活用して情報を収集・分析して,先端技術の動向を把握するとともに，研究目的を理解する。 2. 研究遂行計画を主体的に立案するとともに，実験・解析を具体的に実行して結果の妥当性を評価できる。 3. 研究成果の学会等での発表や校外実習を通じて多くの技術者と自由に意見交換や交流ができる。 ◎ 4. 技術者が社会に負う責任を認識するとともに，企業活動を多面的に判断した対応力をもち，地域社会や広く世の中に貢献できる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	必要な情報の収集と整理・分析により関連の技術・研究動向が理解でき,これらと関連させて研究目的を理解できる。	自分で調査して得た文献・資料などをもとに,情報が正しいかどうか考え,活用できる。	自分で調査して得た文献・資料などの内容を言える。	自分で調査して得た文献・資料などの内容を言えない。		
評価項目2	工学上の問題解決のために特別な研究計画を立てることができ,データを分析し論理的に説明することができる。	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価方法・結果を論理的に説明することができる。	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価	研究目的に沿って自ら研究計画が立案でき,仮説や調査の検証・評価方		
評価項目3	効果的なプレゼンテーションの基本的なパターンを使って,制限時間内で,相手に分かりやすく説明した上で,自分の意見を効果的に伝えられる。	プレゼンテーションの基本的なパターンを使って,発表ができる。	プレゼンテーションの基本的なパターンを知っている。	プレゼンテーションの基本的なパターンを知らない。		
評価項目4	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し,技術者が社会に負っている責任を理解でき,自身の将来にわたるキャリアデザインを明確化し,多面的な基準から企業との適正を評価できる。	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し,技術者が社会に負っている責任を理解でき,技術者として成長していく自分を意識し,継続的な自己研さんができる。	技術者が社会に負っている責任を言える。	技術者が社会に負っている責任を言えない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：実験・実習					
	必修・履修・履修選択・選択の別：必修					
	基礎となる学問分野：工学／機械工学・制御工学					
	専攻科学学習目標との関連：本科目は専攻科学学習目標「(4)特別研究を自主的，積極的に推進することにより，技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力，すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力，研究能力を身につけるとともに，研究結果を学会などで発表し，他の研究者や技術者との交流を通じて，プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。」に相当する科目である。					
授業の進め方・方法	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(E) 研究能力の育成,E-1:工学現象を解析するための科学的な実験の計画・遂行・考察ができ，応用できること」であるが，付随的には「A-3」，「C-1」，「D-1」，「D-3」，「E-2」，「E-3」，「F-1」，「G-2」，「H-1」にも関与する。また，本科目ではデザイン能力の中の構想力，問題設定能力，公衆の健康・安全，文化，経済，環境，倫理等の観点から問題点を認識する能力，およびこれらの問題点などから生じる制約条件下で解を見出す能力，構想したものを図，文章，式，プログラム等で表現する能力，継続的に計画し，実施する能力の育成に関与する。なお，本科目に関連して技術者倫理に関する講演会を必ず聴講すること。					
	授業の概要：特徴ある研究課題に取り組むことにより，自主的な問題発見能力と課題解決能力の養成を目的とし，知識の深化と研究開発能力を体得する。成果は中間発表概要として提出され，必要に応じて学会等での外部発表を行う。					
	授業の方法：指導教員のもとで，研究テーマごとに主体的に実験または解析的研究を行う。取り組みの中で，工学的研究の進め方，科学技術論文の書き方，発表・討論の仕方を適宜指導・助言する。					
成績評価方法：1年生では，授業計画で示されている条件を指導教員等により評価する。具体的には，テーマ発表会を専門的能力（10％），校外実習報告会（発表資料の提出と発表の実施）を分野横断的能力（10％）とする。ならびに中間発表の準備（概要，予稿）と技術者倫理講演会レポートで専門的能力（70％），校外実習報告書で分野横断的能力（10％）。評価に当たっては，教育プログラムの (A) および (C) ～ (H) の各項目に対して達成度を評価し，合計評価点の6割以上をもって合格とする。評価点が合格点に達しない場合は，指導を行い，再評価を行うことがある。						

注意点	履修上の注意：なし 履修のアドバイス：極めて多くの時間が割当てられている。与えられた環境の中で最大の成果が出るように、自主的に研究活動を行うこと。 基礎科目：これまで学習してきた科目全般 受講上のアドバイス：本科目は専攻科における最も重要な主となる科目である。したがって、あらゆる面で主体性を持って全力で取り組むことが求められる。また、2年では大学評価・学位授与機構から「学士」を取得する際に、「学修総まとめ科目履修計画書」と「学修総まとめ科目の成果の要旨等」の提出が必要である。これらはいずれも特別研究の内容が基盤となることを念頭に研究活動を進める必要がある。なお、前後期終了後に研究実施記録簿の提出を行うこと。
-----	---

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	
		2週	研究テーマと研究計画	
		3週	研究テーマと研究計画	
		4週	研究テーマと研究計画	
		5週	研究テーマと研究計画	
		6週	研究テーマと研究計画	
		7週	研究テーマと研究計画	
		8週	研究テーマと研究計画	
	2ndQ	9週	テーマ発表会	
		10週	実験・解析の試行と検証	
		11週	実験・解析の試行と検証	
		12週	実験・解析の試行と検証	
		13週	実験・解析の試行と検証	
		14週	実験・解析の試行と検証	
		15週	実験・解析の試行と検証	
		16週	実験・解析の試行と検証	
後期	3rdQ	1週	実験・解析の試行と検証	
		2週	実験・解析の試行と検証	
		3週	実験・解析の試行と検証	
		4週	実験・解析の試行と検証	
		5週	実験・解析の試行と検証	
		6週	実験・解析の試行と検証	
		7週	実験・解析の試行と検証	
		8週	実験・解析の試行と検証	
	4thQ	9週	実験・解析の試行と検証	
		10週	実験・解析の試行と検証	
		11週	実験・解析の試行と検証	
		12週	実験・解析の試行と検証	
		13週	実験・解析の試行と検証	
		14週	実験・解析の試行と検証	
		15週	実験・解析の試行と検証	
		16週	実験・解析の試行と検証	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	自己評価	課題	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	0	0	70	0	80
分野横断的能力	0	10	0	0	10	0	20